

中期経営計画見直しのポイント

下記2項目の経営指標の目標設定を除き、当初計画を継続する。

目標を見直す経営指標

【1】

1. 重点事項

(3)万博関連事業の取組

大阪生活オリエンテーションの実施:目標値の設定

【成果指標】	R4実績 (2022)	R5実績 (2023)	R6実績 (2024)	R7見込 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	備考
大阪生活オリエンテーションの実施	—	1回	2回	3回	3回(※)	3回(※)	(※)万博レガシーとして、R8年度以降もR7年度見込を維持する

- ・上記経営目標について、中期経営計画策定時には「R8年度以降は、R7年度までの実績を見て設定」としていた。
- ・R7年4月13日から開催された「2025大阪・関西万博」も10月13日に終了。掲げた経営目標は達成見込である。
- ・万博レガシーとして、またIR開業までの間ノウハウを蓄積・確立させるために、R7年度目標を維持し、R8～R9年度の目標を3回と設定した。

【2】

3. 事業基盤の強化

(5)留学生会館のさらなる収益確保

入居率(年平均):目標値の設定及び算出方法の見直し

【成果指標】	R4実績 (2022)	R5実績 (2023)	R6実績 (2024)	R7見込 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	備考
入居率 ※ウクライナ避難留学生 受入枠を除き算出	85.8%	82.8%	74.6%	85%	85%	85%	R8、R9ともに期初設定した経営目標85%を維持
(参考)入居率 ※ウクライナ避難留学生 受入枠を含めて算出	82.0%	79.9%	74.6%	—	—	—	

- ・上記経営目標について、中期経営計画策定時には「R6年度以降は、R5年度の実績を見て必要に応じて再設定」としていた。
- ・R5年度の実績は79.9%と未達ではあったが、R6年度の経営目標を85%に据え置き、経営目標の達成を目指したが、R6年度の実績は74.6%とR5年度実績を下回る厳しい結果となった。
- ・入寮者の在籍校の偏重が実績に影響しており、R7年度は受入校数増を図るべく募集案内を強化し、R7年度の最終見込は現時点で85%を見込んでいる
- ・R4年6月よりウクライナ避難民学生受入のため、全85室のうちウクライナ学生支援会との協定に基づく室数(以下、「受入枠」という。)を確保しているが、R7年7月以降は入室が0室となっている。入居学生がいない場合であっても受入枠は常時キープしておく必要があるため、法人の経営努力の及ばないものとなっている。(貸出せる居室数が85室-受入枠となり、仮に満室となっても入居率は100%とならない。)
- ・そこで、R8～9年度の入居率算出方法を ウクライナ避難民学生を除く入居室数/(85室-受入枠)に見直したうえで、目標の85%を維持することとする。